

# いまかねのあゆみ ~カイギウがいた頃から今金町ができるまで~

時代	年代	主なできごと	ここで紹介している文化財
	約120万年前	いまかね周辺は海で、カイギウがすんでいた	・ピリカカイギウ
旧石器	約2万年前	いまかねに初めて人が住み始める 美利河でさかんに石器がつくられる	・ピリカ遺跡
縄文	約1.2万年前	土器が使われはじめる 竪穴式住居がつくられ、定住がはじまる	
続縄文	-0		
擦文	-8世紀頃		
	-14世紀頃		
アイヌ文化	-17世紀中～後半	松前藩ができ、やがて後志利別川上流でさかんに砂金が採取される	・砂金採掘跡
	-1669年	シャクシャインの戦いを機に後志利別川での砂金採取がとだえる	・カニカン岳金山跡
明治時代	-1857年	松浦武四郎が国縫川から後志利別川を下り探検する	
	-1854～59年	函館奉行が美利河で砂金採取をはじめ	・「クナナ井」砂金山絵図
	-1880年(M13)	大島勘左衛門ら後志利別川上流でメノウとマンガンを発見	
	-1891年(M24)	京都同志社の学生志方之善ら神丘に移住し、本町開拓の先駆けとなる	
	-1893年(M26)	同年、山形県人ら後志利別川上流で砂金採取を行う 今村藤次郎・金森石郎ら今金に移住し開拓をはじめ 大豆の作付けがはじまる	
	-1894年(M27)	加藤政之助・勘助ら種川に移住し開拓をはじめ	
	-1896年(M29)	金原明善・鈴木幾太郎が共同で金原・鈴岡の開拓をはじめ 荻野吟子、インマヌエルに移ってくる 鈴木義宗ら八束に移住し開拓をはじめ 今金八幡宮ができる	・インマヌエル教会
	-1897年(M30)	瀬棚村から分村し利別村（今の今金町）となる 美利河マンガンの採掘さかんとなり鉱夫900人を超える 豊田・住吉・白石の開拓がはじまり各地区への道路工事がすすむ	・美利河マンガン鉱山跡
	-1903年(M36)	神丘・八束・稲穂で米づくりが試みられる	
	-1908年(M41)	水田稲作が成功する	
	-1909年(M42)	白石の上田甚作、上田式豆まき器を発明。その後全道に普及する	・上田式豆まき器
	-1910年(M43)	乗合馬車、国縫・瀬棚間走る 利別消防組が設置される	
	大正時代	-1912年(T1)	石塚弥太郎メップマンガン鉱山を発見する
-1916年(T5)		八雲・今金間に定期馬車走る	
-1919年(T8)		八束で本格的な水田耕作始まる 今金市街に電気が通る	
-1922年(T11)		住吉から愛知にかけて農業用水路が完成し米づくりの基礎ができる	・利別幹線かんがい溝水門
-1923年(T12)		今金市街に電話が開設される	
昭和時代	-1925年(T14)	田代の佐藤万太郎、万太郎米を育成し表彰される	
	-1929年(S4)	国縫・花石間の鉄道が開通する	
	-1930年(S5)	花石・今金間の鉄道が開通する 今金集乳所ができる	
	-1932年(S7)	国鉄瀬棚線が全線開通する	・国鉄瀬棚線跡
	-1937年(S12)	種子用ばれいしょがつくられる（本州へおくられる）	
	-1945年(S20)	終戦	
	-1947年(S22)	利別村が今金町になる	